

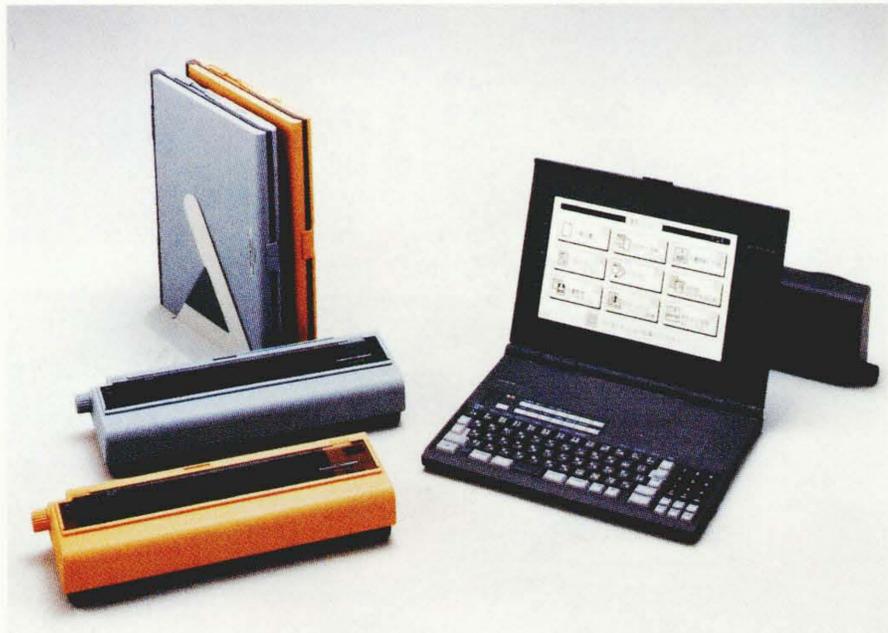
新製品
紹介業界最薄のノート形ワードプロセッサ
“with me (BF-1)”

図1 日立パーソナルワードプロセッサ “with me(BF-1)”

“with me(BF-1)”は、ワードプロセッサ(以下、ワープロと略します。)を鉛筆、ボールペンに次ぐ第3の筆記用具と考える20代の若い世代を対象とするA4ファイルサイズのノート形ワープロです。業界最薄・最軽量、カラーバリエーションなどのほか、次のような機能を実現しています(図1)。

1. 主な特長

(1) 厚さ29.7 mm, 重さ1.8 kgを実現

新構造の超薄形バックライト付き液晶, 世界一薄い3.5インチフロッピーディスクドライブなどの採用によるもので, このタイプとしては業界最薄・最軽量のワープロです。

(2) 入力ミスを軽減する「モードレス入力方式」を採用

この入力方式は, 入力しようと思っている入力モードと, 事前に設定したモードが異なっている場合でも, 入力された文字の固有の出現頻度などから, 自動的にオペレーターの意図するモードに切り替えることを可能にするもので, こうした方式(ソフトウェア)の採用も業界では初めてのことです。

(3) 「パーソナルDTP機能」で, はがきや案内状の作成が簡単

文字やイラストを液晶画面上で移動したり, 並べ替えたりしながらレイアウトを行う機能で, 使いやすい「パーソナルDTP文例集」も用意しています。

(4) ゲーム感覚でタイプ練習もできます。

「もぐらたたきゲーム」や「うさぎとかめ」の競争ゲームの要領で, ブラインドタッチや入力のスピードアップ練習ができます。

(5) 手軽に持ち運ぶこともできます。

本体は, ブルイシュグレー, ミストグリーンおよびアプリコットオレンジの3色で, 好みの色を選ぶことができます。また, オプションでキャリングバック(2種類), ファイルバッグ(2種類)も用意しています。

2. 主な仕様

主な仕様を表1に示します。

表1 主な仕様

表示部	画面	640×400ドット バックライト付き白黒液晶・40字×21行(うちガイド4行)			
記憶部	装置	3.5インチフロッピー(1.6 Mバイト)×1台			
	印字方式	熱転写(48×48ドットヘッド)			
プリンタ部	書体	明朝体	毛筆体	ゴシック体(オプション)	筆記体(オプション)
	文字サイズ	約8ポイント・約10.5ポイント・約13ポイント			
	印字速度	35字/s, 70字/s(48×48ドット/字)			
質量(重さ)	本体	幅320.0 mm×奥行き243.0 mm×高さ29.7 mm(突起部を除く。), 約1.8 kg			
	プリンタ	幅345.0 mm×奥行き113.0 mm×高さ62.0 mm, 約1.5 kg			
電源	充電式ニッケル電池内蔵(DC 6 V), 専用ACアダプタ使用時AC100 V±10 V 最大時27 W・待機時 8 W, 50/60 Hz				

本体標準価格(税別) 198,000円(プリンタ含む。)

(日立製作所 OA事業部)

新製品
紹介

A3フル表示ディスプレイと大容量12インチ光ディスクを採用した「HITFILE 6500シリーズ」

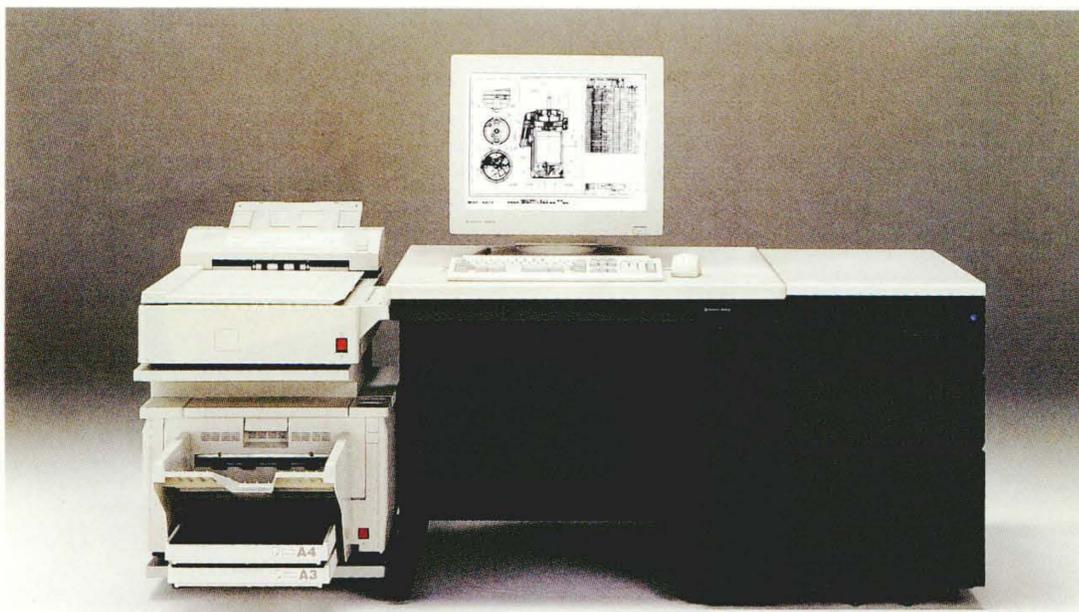


図1 日立光ディスクファイルシステム「HITFILE 6500シリーズ」

日立製作所は、昭和58年8月に開発した“HITFILE 60”以来、次々に新モデル、新シリーズを発売して、光ディスクファイル、すなわちオフィスでの情報データベースとしての新領域を開拓してきました。今回発売した「HITFILE 6500シリーズ」(図1) 8モデルは、そうした技術の蓄積を生かしたもので、新アーキテクチャの採用により、高性能化を実現しています。

1. 新シリーズの主な特長

(1) 21インチディスプレイの採用

A3サイズの地図、図面および書類をフル表示することができるようになりました。これは業界初の機能です。また、マルチウインドウ表示で2枚同時表示および高速文書/ページめくりでの8画面表示を行うことができます。

(2) 大容量12インチ光ディスクの採用

A4サイズ20万枚(従来比2.5倍)の書類を1枚の光ディスクでファイルできます。これも業界最大

の記憶容量で、省スペース化はもちろん、検索スピードも一段と速くなります。

(3) ネットワーク機能も大幅に強化

ホストコンピュータやワークステーションとの接続による連携システムの構築も可能です。

(4) 使い勝手の向上を図る数々の新機能を実現

すべての操作をアイコンやマウスで実現できるようにしました。また、操作方法のガイダンス表示機能もあるので、初めての人でも容易に利用できます。

2. 主な仕様

新シリーズの主な仕様を表1に示します。

表1 主な仕様

システム	HITFILE 6500/75H*	HITFILE 6500/55R**	HITFILE 6500/50R**	HITFILE 6500/30R**
装置				
ディスプレイ	21インチ横形			17インチ縦形
光ディスク装置	大容量12インチ追記形 ODD×1	5インチ書換形 ODD×1	5インチ書換形 ODD×1	5インチ書換形 ODD×1
増設光ディスク接続台数	最大3台			
光ディスクライブラリ装置	47枚または64枚	24枚または48枚		
システムへの接続台数	最大2台	最大2台		
A3スキャナ	静止・搬送形, 200/400 dpi, 約1.5s/A4(走査時間, 200 dpi時) 64階調(写真領域自動判定機能付き), 自動濃度・用紙サイズ判定機能付き			
増設スキャナ	両面スキャナ, A1スキャナ, A0スキャナのいずれか選択			
A3プリンタ	レーザービームプリンタ, 400 dpi 約20枚/min(印字速度, A4時), 普通紙		レーザービームプリンタ, 400 dpi 約11枚/min(印字速度, A4時), 普通紙	
増設プリンタ	A1プリンタ			
ファクシミリ伝送装置	G4用(送・受信***), G3用(送信のみ)			
文字認識装置	手書き数字, 英字, 記号, 仮名			

注: * 従来形12インチ追記形光ディスクモデルもあります。 本体標準価格(税別) HITFILE 6500/75H 13,800,000円
 ** 5インチ追記形光ディスクモデルも // HITFILE 6500/55R 8,400,000円
 *** 書換形光ディスクでだけ行えます。 // HITFILE 6500/50R 7,500,000円
 // HITFILE 6500/30R 4,980,000円

(日立製作所 コンピュータ事業部)

新製品
紹介送受信先の確認ができるホーム・コピー
ファックス“HF-S2”

図1 日立ホーム・コピーファックス“HF-S2”

好評の“HF-S1”に続くホーム・コピーファックスの第2弾で、使い勝手も一段と向上しました(図1)。

1. “HF-S2”の主な特長

(1) ファクシミリ送受信先を確認できます。

液晶ディスプレイを搭載しており、ファクシミリ送受信先の確認が可能です。

(2) 30 m記録紙対応で、記録やコピーに余裕が生まれます。

30 m記録紙対応で、ビジネス用としても利用できます。また、B4サイズ対応なので、週刊誌2ページ大の原稿の送受信も可能です。

(3) 薄形・軽量の省スペースデザイン

厚さ48 mm(記録紙カセット部は70 mm)、重さ2.9 kgのコンパクトデザインとなっています。

(4) 電話とファクシミリの自動切換ができます。

電話とファクシミリの自動切換機能付きで、1回線を上手に使い分けることができます。

(5) 簡易コピー機としても使えます。

ファクシミリとしてだけでなく、簡易コピー機としても使えます。また、専用ハンディスキャナ“HF-S2 HS”(オプション)を使え

ば、“HF-S2”本体だけでは困難なノート、書籍などのコピーやファクシミリ送信が可能となり、いっそう便利に使うことができます。

(6) その他

日本電信電話株式会社のファクシミリ通信網サービス、コードレス電話の子機呼出機能、ビジネス機並みの高速電送機能(自社モード時15秒)、微妙な濃淡を再現する中間調(16階調)電送モードなどの機能を備えています。

2. HF-S2の主な仕様

主な仕様を表1に示します。

表1 主な仕様

項目	内容
形式	HF-S2
送信原稿サイズ	A5 (148 mm×210 mm)～B4 (257 mm×364 mm)
有効画面幅	B4 : 250 mm, A4 : 210 mm
走査線密度	主 : 8本/mm, 副 : 3.85本/mm〔普通字(標準)モード〕 7.7本/mm〔小さな字(ファイン)モード〕
適用回線	一般加入電話回線, ファクシミリ通信網(16 Hz, 1,300 Hz)
電送時間	15 s
中間調	16階調
寸法	幅325 mm×奥行き289 mm×高さ48 mm(記録紙カセット部の高さは70 mm)
質量(重さ)	約2.9 kg(本体のみ)
消費電力	最大90 W(待機時 : 6.5 W)

本体標準価格(税別) 日立ホーム・コピーファックスHF-S2 89,000円

専用ハンディスキャナHF-S2 HS 44,800円

(日立製作所 AV機器事業部・情報通信事業部)

新製品 紹介

1台で3台分の分析を行う 日立ガスクロマトグラフ「G-5000形」

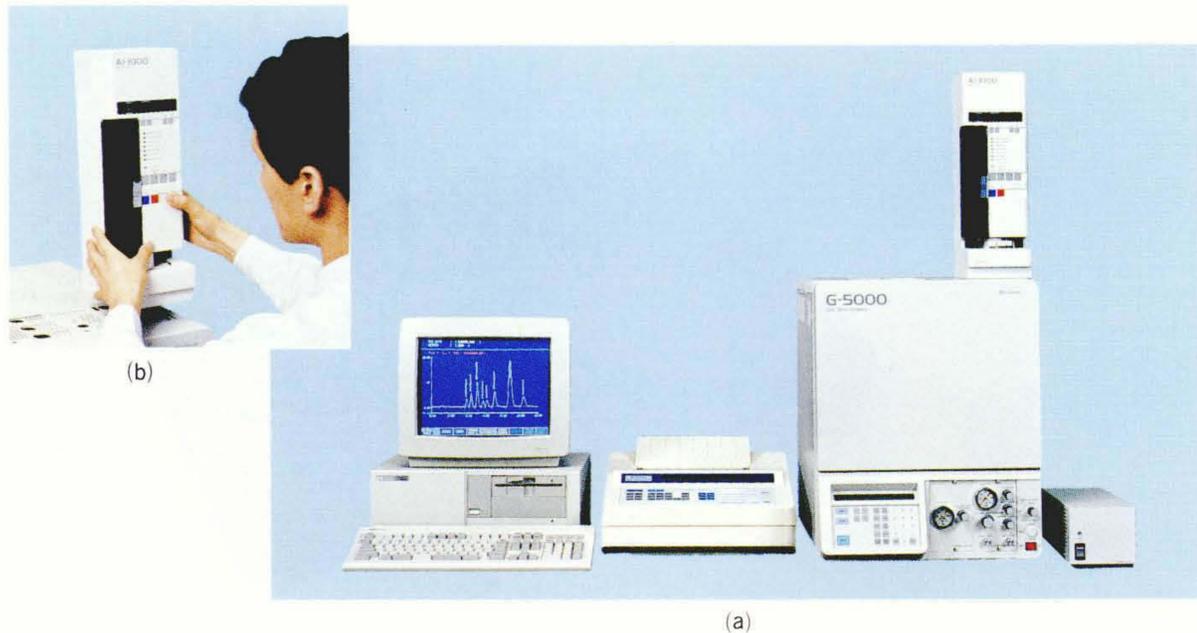


図1 G-5000形GCシステムの外観(a), 高性能なAI-1000形オートインジェクタがワンタッチで取り付けられます(b)。

ガスクロマトグラフ(以下、GCと略します。)は、試料の成分濃度分析に不可欠な装置です。石油関連分野や香料、微量ガス、薬品などの分析を扱う分野で幅広く使用されています。特に石油関連分野では、研究用、品質管理用など、1事業所で50~200台のGCが使用されるのが一般的です。

こうしたことから、最近では、GCについても省力化、自動化および省スペース化のニーズが高まっています。日立製作所が1991年8月から発売を始めた「G-5000形」と「D-5000形」は、こうしたニーズにこたえたもので、それぞれ次のような特長を備えています(図1)。

1. 「G-5000形」の主な特長

(1) キャピラリーカラムを3本装着し省力化と省スペース化に対応

同一試料を異なった3種類の検出器で分析するなど、1台で3台分の分析ができるようになりました。キャピラリーカラム(直径0.1~0.5 mm程度の内径の細かい分離カラム)3本と、検出器3個を同時に装着できるようにしました。これによって、分析作業の省力化、効率化を実現したばかりでなく、香料や石油成分の高分離分析も容易になりました。

また、装置の横幅が当社従来機(G-3000形)に比べ20%薄くなっていますので、5台で1台分のスペース削減となり、狭い場所での多数台設置が可能になりま

した。

(2) シャープで分離の良い波形ピークが得られます。

試料の分離能力は、本体内の温度分布に大きく左右されます。そこで、本体内の温度分布をより均一にして、キャピラリー分析の理想に近づけるよう、「G-5000形」の本体をスクエア形に設計したため、精度の高い分析ができます。

(3) その他

50℃から350℃までの昇温時間が約8.5分(当社従来機は13分)となり、昇温分析がより迅速にできます。また、オートインジェクタ「AI-1000形」を装着すれば、4台分の試料注入からデータ処理結果のアウトプットまでを自動化することができます。

2. 「D-5000形」の主な特長

パーソナルコンピュータタイプのデータステーションです。1台で最大4台までのGCに接続し、これらの分析条件の設定、制御からデータ処理までを行うことができます。また、カラーCRTでシステム構成や使用状態、分析条件、さらにはクロマト波形などの分析結果をモニタするなど、一元管理に役立ちます。

本体標準価格(税別) 1,450,000円

(日立製作所 計測器事業部)